

環境社会貢献

積極的な環境社会貢献活動を推進し、国際社会・地域社会との共存共栄をめざします。

環境社会貢献活動の基本的な考え方

富士通グループでは、社員一人ひとりが、地球環境の大切さを認識し、美しい地球環境を次世代へと受け継いでいくために、「地域貢献活動」、「自然環境保全活動」、「環境教育活動」を3つの柱とする環境社会貢献活動を通して、地域社会に貢献しています。

2007年度よりスタートした第5期環境行動計画では、重点5分野の一つに「環境社会貢献」を掲げ、活動を強化しています。

生物多様性の保全

富士通は、2008年5月にドイツで開催された「生物多様性条約第9回締約国会議」で、「ビジネスと生物多様性に関するイニシアティブ」のリーダーシップ宣言に賛同する企業として署名しました。今後も環境マネジメントシステムの枠組みのなかで、生物多様性保全に向けた活動を推進していきます。

マレーシア・ボルネオ島の熱帯雨林再生をめざして

世界中の生物の50%以上は熱帯雨林に棲息・生育しているといわれています。その熱帯雨林が近年、商業伐採などにより、急速に破壊されつつあります。富士通では、生物多様性保全の観点から世界の三大熱帯雨林の一つである、東南アジアのマレーシア・ボルネオ島で熱帯雨林の再生に取り組んでいます。

2002年よりサバ州森林開発公社、(財)国際緑化推進センターの支援を受け、サバ州キナルート地区にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」の150haの土地に社員がボランティアで植林を実施してきました。樹種は熱帯雨林の在来種であるフタバガキ種をこれまで



樹高6mに成長したフタバガキ種

37,500本植えてきました。

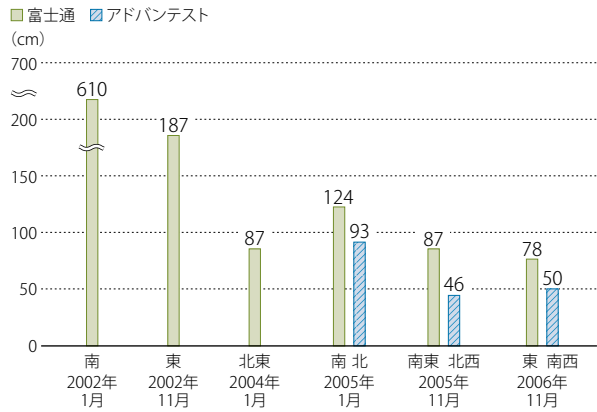
2007年度は、2005年度より植林を協働で実施している(株)アドバンテストと一緒に苗木の生育状況の調査を行いました。植林場所は北緯6度の赤道直下に近い場所にあるため、日当り

は植林を実施した斜面の向きに

は関係ないだろうという予測に反して、調査結果からは南向きの斜面ほど成長が早い傾向がみられました。また草で覆われたエリアは苗木の活着率が悪く、周りに雑木があるところも成長が遅い傾向があることがわかってきました。

これらのことから苗木の生長を促すには、下刈や除伐を実施し、適度に日当たりを良くする必要があります。今後、熱帯雨林の再生に向けて下刈や除伐などの保育作業に取り組んでいきます。

苗木の樹高と植林斜面との関係



広葉樹の森づくり

富士通グループでは、和歌山県田辺市にある「富士通グループ・紀伊龍神 せせらぎの森」で広葉樹の森づくりに取り組んでいます。この取り組みは、もともとスギ林だった伐採跡地を広葉樹の森として再生しようという取り組みです。

2008年は、4月に富士通グループ社員とその家族134名が集まりました。急斜面を登り、鍬で穴を掘り、シラカシ、トチノキ、イロハモミジ、ヤマザクラ、ケヤキなど約500本の苗木を一本一本丁寧に植え、脇には植えた人の名前を書いた板を打ち込みました。夏には下草刈りの実施を計画するな



広葉樹の森づくり(記念看板と参加者)

ど、自分たちで植えた苗木を大切に育て、豊かな自然の森の再生をめざしています。

お客様とともに

社員とともに

株主・投資家のために

お取引先とともに

国際社会・地域社会とともに

地球環境のために